

[科目名] プレゼンテーション		[単位数] 2単位	[科目区分] アカデミック・コモンベ ーシックス																					
[担当者] 植田栄子(てるこ)	[オフィス・アワー] 時間: 場所:		[授業の方法] 講義・発表																					
[科目の概要] プレゼンテーションに必要な理論と実践を学び、最終的に無理なく必ず受講生全員のプレゼン力UPをめざす。 主として以下の内容: 1) プレゼンテーションに必要な準備(レジュメの作り方とパワーポイントの作り方) 2) プレゼンテーションに必要な知識(音声的ポイント、ジェスチャーとしてのポイント、アイコンタクト等) 3) プレゼンテーションの構成(アウトラインの作り方、提示の仕方、見せ方) 4) プレゼンテーションの種類(誰に対して、どんな目標で、どんな場所で) ①ゼミでの発表、②学会発表、③学外での発表、④就職面接での自己PR 5) プレゼンテーションの評価(「注意深く聞き評価できる」と、結果的に自分のプレゼンテーション力が向上) 6) より優れたプレゼンテーションから学ぶ(NHK 番組「スーパープレゼンテーション」を視聴して、優れたプレゼンテーションの特徴を具体的に理解し、自分自身のプレゼンにフィードバックする。																								
[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか] 学生時代はもちろん、社会に出てからより重要とされる力が、「プレゼンテーション力」です。 どんなコンピュータもAIも変わることが出来ないのが、「人間が行うプレゼンテーション」なのです。 このプレゼンテーションを学ぶ必要があるのは; 1) どんな時代になっても、「人が人に対して行うプレゼンテーションに代替できるものがない」。 2) ゼミや研究会で、より良いプレゼンテーションができるようになると、自分が伝えたいことがより明確に相手に伝わり、相手の心や行動を「動かす」ことができる。 さらに、プレゼンを学ぶと次のことに結びつきます。 3) 就職活動においてプレゼンテーション能力が求められ、さらに会社での評価に直接つながる。 4) 良いプレゼンテーションが行えるようになると、自分の見せ方や他者への効果的な情報の説明、説得力ある提示、質疑応答がより良く出来るようになります。 すなわち、自分と他人との関係が強化され、意見をわかりやすく、相手に伝えられ説得力が増すのです。																								
[科目の到達目標] A 授業運営に積極的に参加し、2回のクラス発表が特に優秀な水準で達成している。B 授業運営に積極的に参加し、2回のクラス発表が優秀な水準で達成している。C 授業運営に参加し、2回のクラス発表が必要な要件を満たして達成している。D 授業運営に参加し、2回のクラス発表のいずれかが必要要件を満たしている。 F 発表を行っていない。																								
[ディプロマ・ポリシー(DP)との関係]																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">学部</th> <th colspan="3">学科</th> </tr> <tr> <th>DP1</th> <th>DP2</th> <th>DP3</th> <th>DP4</th> <th>DP1</th> <th>DP2</th> <th>DP3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				学部				学科			DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3		○	○	○			
学部				学科																				
DP1	DP2	DP3	DP4	DP1	DP2	DP3																		
	○	○	○																					
[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫] よりきめ細やかな個人指導とグループでの振り返り、各発表へのフィードバックを引き続き行なっていく。																								
[教科書]																								

〔指定図書〕	
〔参考書〕	
〔前提科目〕 なし	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) ・授業中の2回の発表(レジュメ、パワーポイント) ・授業中での積極的な質問や討論への参加 ・期末レポート提出	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 実践的に学べるように、初回から徐々に必要なプレゼンテーションの知識を能力が身につくようになります。そのためには必ず課題をこなし、自分の発表はもちろん、他の人の発表を分析的に聞いていくことが重要です。また、フォーマルな場として敬語表現を意識して使用していきます。	
〔実務経歴〕 海外大学での教育研究活動以外の実務経歴(現地の商工会議所など異文化との交渉にかかる実践経歴)等を活かしプレゼンテーションに関してグローバルな視点も入れて実践的に学びます。	
授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか): コミュニケーションについて学ぶ必要 内 容: コミュニケーションの基礎知識。プレゼンテーションに関するニーズ分析。
第2回	テーマ(何を学ぶか): プレゼンテーションの目的 内 容: 様々なプレゼンテーションの種類、構成要素を知る。参考 DVD を視聴。
第3回	テーマ(何を学ぶか): コミュニケーションの基礎知識の復習(「対人コミュニケーションに関して」) 内 容: その中におけるプレゼンテーションの基本的知識、これからの目的
第4回	テーマ(何を学ぶか): プレゼンテーションに必要な材料(レジュメとは? パワーポイントとは?) 内 容: それぞれの特徴と作成方法を学ぶ
第5回	テーマ(何を学ぶか): 第1回目のレジュメを用いたプレゼンテーション実践練習① 内 容: 担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。
第6回	テーマ(何を学ぶか): 第1回目のレジュメを用いたプレゼンテーション実践練習② 内 容: 担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。
第7回	テーマ(何を学ぶか): 第1回目のレジュメを用いたプレゼンテーション実践練習③ 内 容: 担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。
第8回	テーマ(何を学ぶか): 第1回目のレジュメを用いたプレゼンテーション実践練習④ 内 容: 担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。

第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): 第1回目のレジュメを用いたプレゼンテーション実践練習⑤</p> <p>内 容: 担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。</p> <p>*これまでの講評とパワーポイント発表に関する注意点。</p> <p>*参考となるDVD視聴</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): 第2回目のパワーポイントを用いたプレゼンテーション実践練習①</p> <p>内 容: 担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。</p> <p>*ここからのパワーポイントを用いたプレゼンテーションはアクティブラーニング室(405)で実施予定。*スーパープレゼンテーションを途中で視聴予定(最低でも2本)</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): 第2回目のパワーポイントを用いたプレゼンテーション実践練習②</p> <p>内 容: 担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): 第2回目のパワーポイントを用いたプレゼンテーション実践練習③</p> <p>内 容: 担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): 第2回目のパワーポイントを用いたプレゼンテーション実践練習④</p> <p>内 容: 担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): 第2回目のパワーポイントを用いたプレゼンテーション実践練習⑤</p> <p>内 容: 担当者がプレゼンテーションを行い、クラス全員で質疑応答、講評、コメントシートを書く。</p>
第15回	<p>全体を通して成果を挙げた点、さらなる今後の課題。</p> <p>スーパープレゼンテーションを視聴して分析レポートとする期末課題説明。</p>
試験	<p>授業中に行う2回のプレゼンテーション、その資料内容、提出するコメントシート、授業内での質疑応答、プレゼンテーションを視聴して分析レポートを提出、以上により総合評価を行う。</p>